

目指す学校像 —「はむらの学校教育」—

① 子どもが学ぶ喜びと自信をもてる学校

- まずは、全ての教育活動を「子どもが自分のよさや可能性に気付き、伸ばす機会」と捉え、よい点や進歩の状況を積極的に評価する体制を、学校全体で築くことが大切です。
- その上で、「はむらの授業指針」を活用した、「力が付く」授業、「学ぶ意欲がわく」授業づくりを進めることが、子どもたちの学ぶ喜びと自信の獲得につながります。



② 保護者・地域の方から信頼される学校

- 教師が教育公務員としての服務規律を順守することはもとより、日頃から家庭・地域に学校の教育活動の計画および成果と課題を積極的に公表するとともに、要望を的確に把握し、迅速に対応することが大切です。
- 保護者の切実な願いは、我が子を安心して通わせることができること、我が子が笑顔で元気に登校することです。このことを踏まえた、日々の学級、学年、学校の経営が必要です。

③ 「チーム」としての力を生かし、主体的に課題を解決する学校

- 現在、学校には、学力向上、いじめ・不登校等の生活指導上の問題への対応、特別支援教育の充実をはじめ、様々な課題があります。こうした課題に的確に対応するためには、学校が協働体制を確立し、「チーム」としての対応力を高めることが重要です。
- 協働体制の確立に当たっては、教職員の「目標への意思の統合」と、そのための「コミュニケーションの活性化」が必要です。また、「チーム」として対応する際には、「目標共有」、「役割分担」、「調整・統合」の三つの機能を生かした組織運営を工夫することが肝要です。

反復練習

野球解説者 野村克也

反復練習が、己を磨いていく。「平凡の非凡」という言葉がある。平凡な練習にも意味があり、その意味を理解して努力を重ね続けていくことは、誰にもできることではない。それはもはや「非凡」なのである。

出典：野村克也著「野村克也の人生論 この一球」（海竜社）

※ この言葉から、イチロー選手を思い描く人は多いはず。反復が基礎を磨き、ブレを防ぎます。